



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2014年度 事業総括書

2015年3月

和歌山大学地域創造支援機構

南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2014年度

目 次

1、はじめに

南紀熊野サテライト 2014年度の事業概要と課題

2、具体的活動成果 授業実施状況

【1】 高等教育部門／主催講座関係

【2】 地域研究・生涯学習部門

【3】 地域連携産学官連携部門／地域からの相談

【4】 運営基盤の強化／視察受入等

3、あとがき

4、新聞掲載資料

【1】高等教育部門／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ11名（修士課程含）、学部受講者5科目延べ88名（高校連携含）合計99名

※備考：南紀熊野サテライト修士課程研究指導申請なし

《平成26年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧》

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士課程	高校生	
大学院	前期	地域観光情報の発信と管理	田中	観光学部	2	0		2
		社会思想から現代社会を考える	阿部、他2名	経済学部	3	0		3
		南紀における教育資源の開発	松浦	教育学部	3	0		3
	後期	現代の金融・証券市場	築田	経済学部	2	0		2
		情報の科学と技術	瀧、他4名	シス工学部	1	0		1
					合計			11

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
学部	前期	紀州郷土学C	出口、他4名	オムニバス	17	0	0	17
		地域暮らしの安全学B	江種、他5名	オムニバス	15	0	0	15
	後期	地域暮らしの安全学C	大西、他5名	オムニバス	10	0	1	11
		紀州郷土学D	此松、他5名	オムニバス	17	1	0	18
		地域づくり戦略論	藤田	観光学部	8	19	0	27
					合計			88

※オムニバス（学部複合での開催の意味）

総合計	99
-----	----



大学院授業の様子



学部開放授業の様子「紀州郷土学」

《実施概要》

①大学院科目の概要

《地域へのフィールドワークを取り入れた地域型の授業を実施》

大学院の授業は教室内での座学だけでなく地域のへの聞き取りや視察調査を行うなど学習を深めている。

②学部科目の概要

《昨年度より体系的な学びの機会として設置。継続受講者が増加》

平成25年度より大学内の教養改革に準じて学部開放授業科目を総合的、体系的な学びに編成。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について聞き取り、コーディネーターにより学内研究PG教員等と調整を行い研究成果の地域還元として授業を開講している。紀伊半島の災害や暮らしのリスクと恵みを学ぶ「地域暮らしの安全学」と、「紀州郷土学」2つのコースで編成し2年間の継続受講者が増加した。前期・後期と継続して受講した者へ「修了証」を発行するなど、継続受講を推奨したPRも実施。県教育委員会との連携により実施している「高校生を対象とした大学授業の公開」事業で受講した地域高校生が和歌山大学経済学部に進学した。また「地域づくり戦略論」(寄付講座)を秋津野ガルテンにて開催。学生と社会人が同じ教室で授業を受ける機会になっている。

③その他

《南紀熊野サテライト大学院進学相談会を実施》

開催日：平成26年11月8日(土) 参加3名 会場：和歌山情報交流センターBig.U内グループ研修室2
内容：和歌山大学経済学部経済学修士課程への進学相談会を実施。

大西サテライト長より修士課程の制度と申請方法、指導教員や研究について説明を行った。

1-2 主催講座・発表会関係

《和歌山県でのゴールデンイヤーに合わせて実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

和歌山大学観光学部の教員と連携して観光の講演会を開催。南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会を春と秋に開催。開設した講座関連の概要は次頁

《サイエンスカフェ、観光塾など、多様な学習機会を設置》

若年世代も参加できる「サイエンスカフェ」を東牟婁地域にて開催。先進地の実践者を招いて話題提供。地域関心の高まっているジオパークやツーリズムをテーマにした「ジオカフェ」を実施。自治体職員や地域住民に混じり、観光を学ぶ高校生の参加や多様な世代が集まる機会となった。身近にサイエンスを学べる学習機会として毎回定員を超える参加を得ている。

《同窓会主催のシンポジウムや、南紀熊野観光塾第一期生修了生の継続的な学びの機会を支援》

県自然環境室の「南紀熊野ジオパーク活動調査研究事業」へ南紀熊野観光塾女子部会にて申請して旅行商品の提案を実施。企画した女子向けのジオサイトのバスツアーは、和歌山ならではの癒しを感じる女性向けの縁結び日帰り旅を提案した。日帰り8800円と既存のジオツアーに比べて高額の設定であったが、定員を超えるお申し込みを得た。研究活動調査としてアンケート調査を実施した。女子部会は、南紀熊野観光塾第一期生で、地域で女性が活躍できる場をつくることを目的に設置。地域の活性や経済活動につなげようと活動している。月に1回~2回サテライトに集まり、男性も交えて活動計画を練っている。



南紀熊野観光塾女子部会の様子(田辺市)



女子部会が企画したツアーの様子(上富田町、白浜町)

《南紀熊野観光塾2014第二期を開催》

社会人の実践的なりカレント教育の場として観光や地域経営を学ぶ「南紀熊野観光塾」を昨年に引き続き開催。「選ばれ続ける地域を考え30年後、50年度の観光と地域経営を学ぶ塾」を目的に、昨年度に加えて午前中に観光学部の教員等による観光概論を設置。また、和歌山大学観光学部の集中講義の一部を同時に大学からネットを活用しサテライトに配信継送するなど取組みも実施した。講師に、観光学部の出口竜也教授、竹林浩志准教授、山田桂一郎客員教授を迎えて全国の先進地の経営者やプロガイドが登場するなど、観光の実践的な学びの機会を提供。塾生には、自治体職員、地域住民、観光業従事者、農林水産業、主婦、学校教員、和歌山大学観光学部生など45名の登録があり、幅広い業種と世代が同じ教室で地域を考え、今後具体的に実践するための中核人材育成の機会となった。



記念講演の様子（和歌山市和歌山大学）



講演する藻谷浩介氏、山田桂一郎塾長

①南紀熊野観光塾2014開塾記念講演

《西牟婁会場の開催内容》

講演名：「選ばれ続ける地域とは」—南紀熊野に必要なこと—

開催日：平成26年10月17日（金）18：30～20：30 参加53名

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 後援：和歌山県

内容：「選ばれ続ける地域とは—南紀熊野に必要なこと—」と題して、南紀熊野観光塾第2期の開講記念講演を開催。

開講挨拶：出口竜也教授（観光学部）、竹林浩志准教授（観光学部）の後、記念講演。

自治体職員、観光業者、地域住民、農林水産業、主婦、学校教員、学生等45名が塾生に登録。南紀熊野地域のこれからの観光や地域経営に必要なこと考え、次世代の地域での中核となる人材の育成を目的に開講。10月～2月にかけて、1ヶ月に一度の塾講演を開催。

持続可能な暮らしと、あるべき観光の姿を考える議論を深めた。様々な世代や業種が集い、同じ教室で今後の和歌山県の観光や地域経営のあり方について考える機会となった。また、和歌山大学観光学部の講義の一部を同時に田辺市内にネット配信で継送するなどの取組みも実施。



南紀熊野観光塾記念講演の様子（田辺市 Big.U）



南紀熊野観光塾第二期カリキュラム

②南紀熊野観光塾 第1回塾講演

≪和歌山大学会場・西牟婁会場の開催内容≫

講演名：観光学部セミナー「真の観光立国とは」

開催日：平成26年11月25日（火）10：30～12：30 参加40名

会場：①和歌山大学 観光学部棟 T101（和歌山市）

②田辺商工会議所3階会議室（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

藻谷浩介氏（日本総合研究所 調査部主席研究員）

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 後援：和歌山県

内容：「真の観光立国とは」と題して南紀熊野観光塾の特別講演を開催。田辺商工会議所とネット配信で同時中継を行った。人口減少が進む地域を維持していくための産業として「観光」を捉えてこの地域でないと味わえないことや体験できないことの必然性について講演を行った。



会場での記念講演の様子（和歌山市 和歌山大学観光学部棟）

南紀熊野観光塾 開塾式・懇親会

開催日：平成26年11月25日（火）16：00 参加34名

会場：秋津野ガルテン（田辺市）

内容：山田桂一郎塾長より開塾挨拶、開塾式、記念写真、懇親会を行った。



南紀熊野観光塾開塾式の様子（田辺市秋津野ガルテン）



南紀熊野観光塾記念講演の様子（田辺市 Big.u）

③南紀熊野観光塾 第2回塾講演

講演名：「選ばれ続ける地域に必要なこと～1日丸ごと山田ゼミ～」

開催日：平成26年11月26日（水）10：00～16：30 参加38名

会場：秋津野ガルテン（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

山田拓氏（株式会社 美ら地球（ちゅらぼし）CEO、総務省 地域力創造アドバイザー）

内容：「集客ゼミ」～海外や県外からの誘客の仕組みとインフラ整備のリスク～と題して、南紀熊野観光塾の第2回講演を開催。新幹線開通、高速道路開通等の交通インフラ充実による、素通り地域の増加と、取り残されるリスクについて各地の事例をもとに解説。「高速道路がない、新幹線の駅がない、空港がない」と無いものを嘆くよりあるものを発見し、いかに発信するかが大切

であることを解説。格安航空、新幹線や高速道路整備の恩恵とリスクを学んだ。午後の講義では、株式会社美ら地球（ちゅらぼし）代表取締役山田卓氏をゲストスピーカーに、飛騨古川を拠点に実施している活動を紹介。「クール（カッコいい）な田舎をプロデュースする」ことで世界中に飛騨の里山（SATOYAMA）の素晴らしさを発信。年々外国人観光客の比率が増え現在は70%超に達している。外国人観光客に提供するプログラムの活動とその成果や課題についての講義。最後に山田塾長から塾生に「皆さんにとって、選ばれるために必要なことは何か？」の問題定義があり、次回講義までに各自の考えを整理するよう課題が提示された。



講演の様子（田辺市 秋津野ガルテン）



山田卓講師の講演の様子

④南紀熊野観光塾 第3回塾講演

講演名：「観光戦略論」

開催日：平成26年12月2日（火）11：00～12：00

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：竹林浩志（和歌山大学観光学部 観光経営学科 准教授）

講演名：「地域経営・付加価値とは」

開催日：平成26年12月2日（火）13：00～16：30

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）生野敬嗣氏（社団法人由布院温泉観光協会事務局長、由布市役所環境商工観光部商工観光課観光新組織準備室次長）

内容：ゲストの生野氏は、由布院のまちづくりについて説明。「経験を通して大きくなることを追いかけるのをやめて小さいままの豊かさを追いかけて。主役は地域である。競争せず共生を」の理念で活動を進めてきたことを紹介。他地域の成功事例の真似だけでは持続可能でないと述べ、地域の独自性を育むことの大切さを説明した。話を受けて山田塾長、生野氏、竹林准教授によるトークセッションを実施。その後、「選ばれるために必要な地域経営と付加価値向上とは？そのための戦略とは？」をテーマにグループワークで議論後、発表した。



生野敬嗣氏講演の様子（田辺市 Big.U）



グループワークの様子（田辺市 Big.U）

⑤南紀熊野観光塾 第4回塾講演

講演名：「観光行動論」

開催日：平成26年12月9日（火）11:00～12:00

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：出口竜也（和歌山大学観光学部観光経営学科教授）

講演名：「地域資源の商品化について」

開催日：平成26年12月2日（火）13:00～16:30

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

吉田陽美（北海道弟子屈町役場観光商工課観光振興係主事てしかがえこまち推進協議会事務局）

内容：観光を基軸としたまちづくりについて講演。北海道弟子屈町で行われている「てしかがえこまち推進協議会の活動を紹介。部会の活動や取り組み中での課題や今後について、弟子屈町が取り組んでいる「観光を軸としたまちづくり「誰もが自慢し誰もが誇れるまち」を目指して」住民と行政の取り組みについて紹介した。その後、「選ばれるために必要な地域経営と付加価値向上とは？そのための戦略と戦術は？」をテーマにグループワーク、代表者が意見を発表した。山田塾長から「過去3回の事例を踏まえて皆さんの市町村の総合計画、観光計画を見直すこと」をテーマに「首長になったつもりで書いてください。」との課題が提示された。

⑥南紀熊野観光塾 第5回塾講演

《東牟婁会場の開催内容》

講演名：「バス/ジオツアー」

開催日：平成27年1月13日（火）6:30～9:45/10:00～11:00 参加26名

会場：移動バス（田辺市～古座川町）南紀月の瀬温泉ぼたん荘（古座川町）

講演者：神保圭志氏（南紀熊野ジオパークガイド会長）福池大輔（南紀月の瀬温泉ぼたん荘職員）

内容：観光塾1期生の福池氏が田辺～古座川町の移動中に古座川町の自然と営みの魅力を語るガイドを行った。参加者からの質問も飛び交った。その後、ぼたん荘から教員と神保氏が合流して周辺のジオサイトを見学した。（ポタン岩、虫喰岩、一枚岩他）



神保氏のジオガイドの様子



古座川ジオツアーで説明を受ける塾生（古座川町虫喰岩）

講演名：「ジオツーリズム・エコツーリズム」

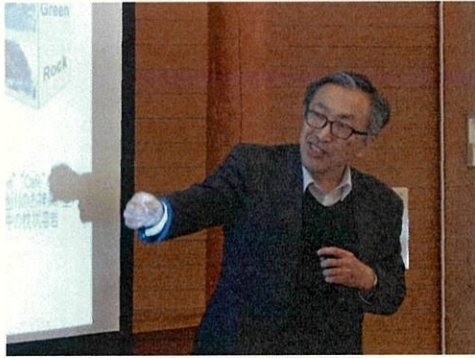
開催日：平成27年1月13日（火）11:00～12:00 参加29名

会場：南紀月の瀬温泉ぼたん荘（古座川町）

講演者：此松昌彦（和歌山大学教育学部理科教育教授）

福島大輔氏（NPO 法人桜島ミュージアム理事長）

内 容：桜島ミュージアム等での活動やジオパークの活動を事例にエコツーリズムとジオツーリズムについて対談形式で説明した。地元デザイナーによる広報物のプロデュースについて紹介した。



此松昌彦教授の講演の様子



会場の様子（古座川町ぼたん荘いろり館）

講演名：「観光地と資源・環境について」

開催日：平成27年1月13日（火）13：00～16：30 参加28名

会 場：南紀月の瀬温泉ぼたん荘（古座川町）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

福島大輔氏（NPO 法人桜島ミュージアムの理事長） 出口教授、此松教授

内 容：トークセッション形式で観光地と資源の活用と自治体や住民の活動などについて話題提供しその後、会場の塾生と質疑応答しながら話合った。



福島大輔氏の講演の様子



トークセッションの様子

⑦南紀熊野観光塾 第6回塾講演

講演名：「海外から見た熊野」

開催日：平成27年2月10日（火）11：00～12：00 参加32名

会 場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室2（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

ブラッド・トゥル氏（田辺市熊野ツーリズムビューロープロモーション事業部長）

内 容：田辺市熊野ツーリズムビューローが設立された経緯や活動の内容を紹介。「ブーム」より「ツール」、「乱開発」より「保全・保存」、「マス」より「個人」、「世界に開かれた上質な観光地」に基本戦略として「持続可能で質の高い観光地」を目指して活動。活動の柱は、情報発信、着地型エージェント、現地のレベルアップ。海外への情報発信（プレスツアー、エージェントツアー、プロモーションツアー）。ウェブサイトの他言語化翻訳を紹介。熊野古道のブランド価値を高めるマーケティングとプロモーションが効果的に実現。田辺市とコンポステラ市の観光交流協定締結から共同ウェブサイト立ち上げ等や交流事例を紹介。お互いの文化を理解する。現地のレベルアップ（ワークショップ、看板、展示・ビジターセンター）。宿泊関係者、交通関係者、観光案内

スタッフなどと60回以上のワークショップを開き、ツールを作成したことや日本人の目線では無く外国人の目線で考えることが重要と説明。看板の統一性、外国語表記。世界中からの個人旅行者に対する行き届いた対応が必要と解説。

講演名：「観光地と資源・環境について」

開催日：平成27年2月10日（火）13：00～16：30 参加34名

会場：和歌山県情報交流センターBig.U研修室2（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

山田拓氏（株式会社 美ら地球（ちゅらぼし）CEO、総務省 地域力創造アドバイザー）

柏木隆久氏（新関西空港株式会社 総務人事部長）

内容：飛騨高山（美ら地球）の山田卓氏が SATOYAMA EXPERIENCE における「プロモーション」と「受け入れ地整備」について紹介。飛騨人の思いと観光客のニーズは異なる場合がある。自分が見せたいものが、観光客も見たいものなのか。必ずしも一通りの見せ方でなくてよいと事例をあげて紹介。その後、新関西空港（株）総務人事部長の柏木隆久氏から、伊丹空港と関西空港の利用客増加に伴う旅客数について紹介。前年度比140%増。内訳は中国、台湾、香港、韓国など近隣アジアの旅客数が多い。和歌山に訪れる観光客は、香港、台湾の比率が高く他の地域と異なる特徴。自治体の継続的な取り組みとして、香港の特定旅行業者とタイアップ（白浜）、タマ駅長にフォーカスした情報発信、現地のプロモーターの活用、雑誌、現地飲食店とのタイアップイベントの開催などを紹介。香港人の特色は、高いリピート率、高いFIT（個人旅行）比率と紹介。多様な情報発信をすればもっと増えるのではないかと提案。高野山とつなげながらアピールすることの重要性を解説。2016年下期には完成予定の第3ターミナルについて紹介。中国LCC春秋航空が関西空港を拠点として、中国内陸部の都市に新しい路線の開設を始めていることや、香港人に続いて流行に敏感な中国人の旅行者をこの熊野地域に呼び込むことも可能になるのではないかと紹介。その後、観光塾第一期生で設立した女子部会の石丸氏から2月7日に企画催行した観光商品ジオセラピーツアーの報告を行った。ツアーづくりでの苦労や補助金を受けての企画の難しさを報告。利益があがらないと継続ができない。活動目的を持つことの重要性を紹介。地域の女性の活躍の場を今後も作って行きたいと発表。山田卓氏から「この一歩が次の一歩につながる。試行錯誤を繰り返していけば結果につながる。継続することが大切。」「個人の旅行者への対応が重要」と総評。その後、グループワーク「世界基準の観光とは」について報告。講師総評では、出口教授から「世界基準・国際基準を考える際に、本当にあるのか。みんなが認める国際基準はない。どこかが決めたことを、認めればそれが国際基準になる。あまり気にせず、一方で今がどのような状況なのか認識することも必要。」「補助金については活動がテーマに沿ったものか熟慮の上申請するのが望ましい」とコメント。また竹林准教授からは「皆さんがどんな人に来て欲しいと思うのか。国籍ではなくどんな行動をする人たち。どんな行動をしてもらいたいのか。商品を買ってくれる人たちはどこにいるのか。分析した上で企画を行い、用途にあう助成金は使うなど工夫が必要。」柏木氏からは「世界基準は、決められたものがあるのではなく、何かをつくりだしていけばいい。本流ものを正しく発信して伝わるようにしないとミスマッチが生じる。現場のことを認識したうえで本モノを発信して欲しい。これから外国人が増えてくるので、来て欲しいお客様を選べるのではないかと。と思う。いい発信、いい仕組みをつくることが重要」山田桂一郎塾長からは「情報の届け方が重要、一過性のことならお金をかけて奇抜なことをやれば目を引くことはできるが、10年、50年単位で考える地域の価値や目指すところを明確にして商品化していく。同じアジア人でも特徴が異なる。台湾人は風呂が好きだが、香港人はあまり好きでない。そういった分析により日本に訪れる観光客のリピート率が向上。補助金をもらわない方が良い時もある。目

的が一致すれば貰えば良い。企画コンセプトが重要。欧米の観光客は歴史文化体験、生活体験に興味あり。来て欲しいお客様はだれなのか。考えることが重要。国際基準や世界基準も変化する。受け入れの質が重要。国際観光競争力は外国人観光客数ではなく満足度すなわち受け入れ側の質を上げ続けることが大切。グローバルな観光地ほどローカルを大切にしている。」と解説した。



柏木氏の講演の様子



トークセッションの様子

⑧南紀熊野観光塾 特別記念講演

講演名：「どんな地域をめざすのか」—未来の熊野のために—

開催日：平成27年2月10日（火）18：30～20：30 参加30名

会場：和歌山県情報交流センターBig.U 研修室1（田辺市）

講演者：山田桂一郎塾長（JTIC SWISS 代表、観光カリスマ、和歌山大学客員教授）

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 後援：和歌山県



⑨南紀熊野サテライト連携協議会

《H26年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

開催日：平成26年8月31日（日）13：30～15：30 参加30名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：開催挨拶、受講生募集説明会（大西敏夫・経済学部教授、南紀熊野サテライト長）

記念講演「TPPの農業への影響と食の安全・安心」

講演者：大西敏夫教授（和歌山大学経済学部）

TPPの最近の状況や日本そして和歌山農業への影響について量的、質的側面から、食の安全安心システムについて解説。

記念講演「印南町の雑賀踊りから考える」講演者：海津一郎教授（教育学部）

紀州が生んだ英雄として名高い雑賀孫一が紀南地方に残した「雑賀踊り」について印南町に伝わった歴史を紹介。

授業紹介DVD上映：「地域暮らしの安全学C」「紀州郷土学D」担当教員紹介ビデオ上映。
講演終了後の質疑応答では、参加者から様々な質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。
修了証授与式：「紀州郷土学C」と「地域暮らしの安全学B」の受講者9名者に修了証を授与。
セミナー終了後のアンケートからは、「紀南の地で大学の授業を受講できることは有り難い」
「多くの人に授業を受けて欲しい」といった意見や期待が寄せられた。



海津一郎教授の講演の様子



会場の様子

⑩南紀熊野サテライト連携協議会

《H27年度前期 公開講座&受講生募集説明会》

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」参加50名

開催日：平成27年2月28日 13:00~16:00 会場：県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：開会挨拶・受講生募集説明会（大西敏夫・経済学部教授、南紀熊野サテライト長）

記念講演「ネットのトラブル・犯罪・依存から子供を守るために」講演者：豊田充崇（和歌山大学教育学部 附属教育実践総合センター准教授）ネット依存やSNSをとりまくトラブルや犯罪についてわかりやすく紹介。

記念講演「南紀熊野ジオパークを考える」講演者：中串 孝志（和歌山大学観光学部 地域再生学科准教授（宇宙教育研究所副所長）全国のジオパークの事例を紹介しながら「ジオパーク」とはどんなものなのかを紹介。

事務局から前期学部授業募集についての説明。和歌山大学生から和歌山大学の4つの学部、サークル活動、広報活動などを紹介。修了証授与式：「紀州郷土学C・D」「地域暮らしの安全学B・C」受講者8名に修了証授与。また、那智勝浦小学生、保護者、那智勝浦教育委員会ら22名が参加。大学を地元児童に身近に感じてもらうとの趣旨で参加。記念講演を聴講して大学の授業の雰囲気を経験。その後、参加した小学生と広報室の学生5名と将来の夢など語り合うなど、現役大学生と交流した。



オープンセミナーで大学紹介をする広報学生



和歌山大学生と小学生らとの交流の様子

⑪和歌山大学 大学説明会、進学相談会

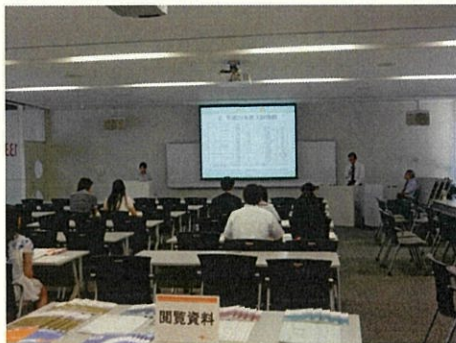
《大学説明会、田辺会場》

講演名：「和歌山大学 オープンキャンパス&大学説明会」

開催日：平成26年6月29日 13:00～15:00 参加15名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室1

内容：オープンキャンパスでは、和歌山大学の特徴や4つの学部の紹介、各学科のデモンストレーションやサークル活動、キャンパスライフを紹介。大学説明会では、大学入試課による入学者選抜方法や進路状況（就職・進学）説明会 や進学相談会を実施。地域住民等、数組が親子で参加。



オープンキャンパスの様子（田辺市 Big.U）

1-3 サイエンスカフェ関係

《幅広い世代が参加可能な「サイエンスカフェ」を実施》

講演会スタイルではなく、専門家による話題提供の後に、お茶を飲みながら参加者と専門家が自由に語る場として、新しい形での学びの企画となった。地域関心の高まるジオパークやツーリズムを題材として「ジオカフェ」を古座川町にて開催した。

①ジオカフェ

講演名：第7回ジオカフェ「ガイドのお仕事」～ジオガイドとエコガイドの役割～

開催日：平成27年1月13日（土）18:30～20:00 参加50名

会場：南紀月の瀬温泉ぼたん荘 いろり館

講演者：福島大輔氏（NPO法人桜島ミュージアム理事長）、山田桂一郎氏（JTIS SWIS

S代表、観光カリスマ）、出口竜也教授（和歌山大学観光学部）ナビゲーター此松昌彦教授（和歌山大学 教育学部 理科教育 教授 防災研究教育センター長）

内容：福島大輔氏（NPO法人桜島ミュージアム理事長）活動紹介では、「桜島をまるごと博物館と考え、現地で本物を見て楽しみながら学べるシステムの構築」を目指して、エコツアーのコーディネートや学校教育のサポート、まちづくりなどで実践している活動を紹介。続いて山田桂一郎氏からガイド業などの活動を紹介。ファシリテーターの此松昌彦教授より会場へ質問が投げかけられ、フリーセッション形式で、ジオとエコガイドの共通点や違い、ツアーの計画の立て方、養成システムなどに必要な事などについて話題提供。その後会場から集められた参加者からの質問カードを見ながら意見交換が行われた。参加者には南紀熊野ジオパーク関係者をはじめ、ジオガイドや地元フィールドガイド、宿泊業者、地元高校生等が参加。講師と一緒に地元の柚を使ったスイーツや番茶を飲みながら参加者が気楽に学べるカフェとして開催した。



地元高校生、地元ガイド、宿泊業者、住民、自治体職員等、幅広い層が参加（古座川ぼたん荘）

1-4 大学同窓会組織との連携

《同窓会主催のシンポジウムを開催》

南紀熊野サテライト同窓会主催事業として、田辺周辺4学部同窓会の協力を得てシンポジウムを実施した。講師選定や開催日などの調整を同窓会執行部で行い、企画運営するのは初めての取り組みとなった。講師調整や広報支援など、サテライト同窓会の自主的な運営の支援を行った。

①「南紀熊野サテライト同窓会企画シンポジウム」

講演名：「つながり合える社会へ ～無縁社会を超えて～」

開催日：平成27年2月14日 13:00～16:00 参加97名

会場：和歌山県情報交流センターBig・U 研修室1

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト同窓会 共催：田辺周辺・和歌山大学四学部同窓会

内容：開催挨拶 大西敏夫（経済学部教授・南紀熊野サテライト長）

基調講演 「つながり合える社会へ 無縁社会を超えるために・わたしたちができること」

講演者：松浦善満（和歌山大学名誉教授・龍谷大学文学部教授）

地域コミュニティの問題解決に「社会的なつながり」が必要と説明。

パネリストの活動報告

- ①藤敷庸一氏（NPO 法人レスキューネットワーク理事長）「自殺予防、生活自立支援に取り組む活動を紹介」
- ②木村勝次氏（公益財団法人和歌山県宅地建物取引業協会理事）「空き家の放置は地域全体の価値を下げるため、利活用を進める必要性を訴える。また自身のリノベーション活動を紹介」
- ③岩月省二氏（和歌山高齢者生活協同組合顧問）「美術家に呼びかけ障がい者支援のための美術展を開催した経験を披露」パネルディスカッション、質疑応答



松浦善満名誉教授講演の様子

②同窓会交流シートを配布

今年度より自主的な同窓会事務局組織の立ち上げに協力を行い、同窓会員の有志の方と共に受講生の交流を目的に「交流シート」を配布するなど連携を実施。

【2】地域研究・生涯学習部門

2-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動に支援を実施》

和歌山大学 独創的研究支援プロジェクト「地域を支え地域に支えられる大学づくりプロジェクト」(旧地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト事業)での地域ニーズの把握と、学内教員と連携するコーディネートを実施。南紀熊野地域での地域研究に繋がった。

①防災プロジェクト

講演名：観光地防災「田辺駅、味光路からの避難経路のマッピングについて」

開催日：平成27年3月16日(月) 11:00~16:00

会場：田辺市観光センター2階会議室

主催：南紀熊野サテライト、共催：和歌山大学地域創造支援機構防災研究教育センター

内容：平成26年度教育改革推進事業経費 OSM とローカル wiki を活用した地域資源の情報発信によるリーダー事業に観光学部出口竜也教授と教育学部此松和歌山大学独創的研究支援プロジェクトの事業報告会と意見交換を目的に開催。H26年度教育改革推進事業経費 OSM とローカル wiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業観光学部出口竜也教育学部此松昌彦システム工学部原祐二産学連携・研究支援センター杉山幹夫ネット上で自由に利用でき、編集機能のある世界地図をつくることを目的とした共同研究プロジェクトとして開催。田辺市内や他市町村などで複数回実施された。



マッピングパーティーの様子(田辺市)



観光センターでの意見交換の様子(田辺市)

2-2 生涯学習関係/講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習センターと連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》

地域課題解決プロジェクト支援事業(県教委-南紀熊野サテライト連携事業)西牟婁地域研修会参画。

平成26年度マナビスト支援セミナー企画ゼミ紀南の部の後方支援。受講生の学びをサポート。

地域生涯学習事業開発プロジェクト参画/地域発展学習プログラム開発と実施に関するセミナー支援。

①田辺市教育委員会の防災キャンプに参加

名称：防災キャンプ推進事業

会場：田辺東部小学校

開催日：平成26年3月6日(金) 13:00~17:00

内容：校庭のかまどベンチで備蓄食品を温めたり体育館にてロープワークや身の回りにある毛布やレジ袋での応急救助訓練をおこなった。小学生に行う場合の課題や注意点について話し合った。



毛布を使った救護訓練の体験



校庭に設置されたかまどベンチでの炊き出しの様子

②田辺東部小学校研究発表会に参加

講演名：平成24、25、26年度田辺市教育委員会指定田辺東部小学校研究発表会「確かな学力を育成する言語活動のあり方」～見とらしをもち、学び合いを大切にする学習～

開催日：平成26年12月5日（月）9：00～14：00

会 場：田辺東部小学校

内 容：低学年の国語科の授業を見学したのち、分科会に参加。その後開催された全体会に出席。



研究発表全体会の様子（田辺市）



分科会の様子

2-3 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に地域情報を紹介するなど活動支援を実施》

学生の南紀熊野地域でのフィールドワークや各種企画の相談や現地調整。学生や教員の地域での教育研究の支援を行った。

①学生の地域を題材とした卒業論文の聞き取りに協力

名 称：卒業論文「B級ご当地グルメによるまちおこし」

会 場：紀伊田辺駅観光センター2階会議室

内 容：大西ゼミ学生（経済学部）の卒業論文の現地支援を行った。全国的に行われているB級グルメやご当地の食べ物を扱った地域おこしの事例を調査。田辺市のまちづくり会社の「南紀みらい」の担当者にウツボや江川ちゃんぼん、梅酒を扱った事例について聞き取りを実施して論文に纏めた。

②地域の産業についての調査

名 称：経済学部の集中講義

会 場：和歌山県立情報交流センタービックユ-

内 容：経済学部学生30名参加。田辺市の産業の現況について産業部長から講話いただき、その後に田辺市役所各部局の協力で水産、商工、観光等のグループに分かれて現地調査を行った。



ご当地グルメまちおこしの聞き取りの様子



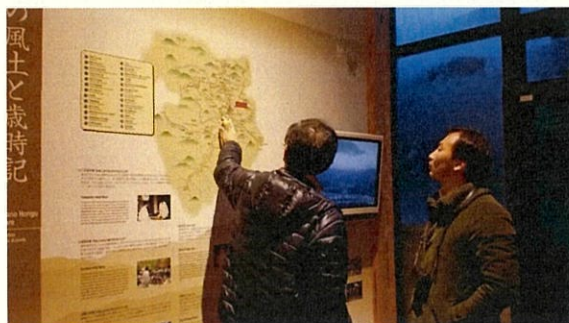
田辺市の産業について現地調査の様子（田辺市）

③本宮町での聞き取り調査

名 称：日本史ゼミの調査研究

会 場：本宮町世界遺産センター、本宮町小栗屋

内 容：教育学部日本史ゼミの学生20名程が本宮町湯の峰温泉や地域に残る小栗判官伝説の史跡や伝承、書籍の調査を行うなど、1泊2日にて現地調査を行った。地域の有識者へ聞き取りを行い、地域に残る紙漉体験を行なった。2日目には調査結果の報告会を実施。上富田町の救馬観音に残る伝説や史跡も調査。今後引き続き調査研究を進める。



小栗伝説と熊野信仰について調査の様子（本宮町）



学生の調査報告会の様子（世界遺産センター）

2-4 大学広報・情報提供関係

〈入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体の作成を行った〉

大学の情報誌などの配架や、学内広報室と連携してネット配信にて学内のサークル紹介やウエルカム動画などを配信できる「デジタルサイネージ」の設置を行った。南紀熊野サテライトのホームページの仕様を見やすく変更。また、写真を多用して、南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを作成するなど、学内外への情報発信の強化を行っている。

〈広報活動の取り組みの事例〉

- ①入学者選抜要項・教員免許状更新講習などの案内冊子の提供や相談対応。
- ②本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施。
- ③地域連携・生涯学習センター発行「生涯学習ニュース」に南紀熊野サテライト通信を引き続き掲載。
- ④学内の広報室と連携して、学生活動動画をネット配信できるデジタルサイネージを設置。
- ⑤ホームページ、パンフレットを見やすい仕様に変更。
- ⑥広報室の学生と地域の子供達との交流。



学生から大学の説明を受ける新宮市中学生



サテライト見学で大学生と交流する那智勝浦町小学生

①地域課題解決プロジェクト支援事業 第2回企画会議での活動紹介と意見交換

講演名：「和歌山大学サテライトについて」

開催日：平成26年9月19日 13:00～16:00 参加20名

会 場：那智勝浦町教育委員会 主 催：和歌山県東牟婁教育支援事務所

内 容：和歌山県教育委員会と、東牟婁郡市町村の教育委員会社会教育職員や図書館、公民館、NPO 関係者が集い、研修会の開催を通じて関係者の資質向上を図る「地域課題解決プロジェクト支援事業第2回会議」に南紀熊野サテライトを含む和歌山大学が持つ3つのサテライトの活動紹介を行った。紹介後に東牟婁地域で望まれる大学活動について意見交換を行った。学生と地域の子供達が触れ合える機会を持たせてほしい。学力向上や大学進学への動機付けになるという声や、熊野サテライトを那智勝浦町にとの声も寄せられた。参加者にニーズ調査アンケートを実施した。



意見交換の様子（那智勝浦町）

【3】地域連携・産学官連携部門／地域からの相談

3-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。サテライト所在のBig. Uの活用推進協議会のワーキンググループへの参加や、学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援を実施した。

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②和歌山県電子自治体推進協議会情報系e-ねっと共同利用WG、Big.U利活用検討サブワーキンググループ会議に参画。
- ③特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート。（和大本学から配信、Big.uにて受信）
- ④高等教育機関コンソーシアム和歌山等の企画提案事業の南紀熊野地域説明会支援。
- ⑤南紀熊野ジオパーク推進協議会関連への活動支援。ジオパークエリアでの「あるもの探し」（上富田町）、南紀熊野ジオパーク研究調査活動事業への観光塾修了生での申請等、継続して推進協議会の企画への活動協力や支援を実施した。



地域での活用に向けた意見交換会の様子



田辺高校との打合せの様子

3-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

支援組織のきのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施した。

- ①きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。
- ②きのくに活性化センター事業「サンマ食文化調査事業」へ参画。
- ③「news きのくに」へ寄稿する地域住民を紹介。

3-3 大学間連携

《県内コンソーシアム事業への参画や、全国の大学所属の地域連携コーディネーターフォーラムを開催》

県内コンソーシアムでの研究推進や、昨年度に続き全国の国立大学、公立、私大など30機関 51名の参加者と地域連携について情報交流する場をホスト校として開催。

①「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催名：「第3回地域と大学を繋ぐコーディネーターネットワーク構築事業」

開催日：平成26年11月20日（木）～21日（金）1泊2日 30機関、51名参加

会場：和歌山大学岸和田サテライト（岸和田市/浪切ホール特別会議室）

内容：地域連携担当者を持つ機関や大学に幹事校として呼びかけ、情報交換の場として実施。

セミナーでは、国立大学・公立大学・私立大学をはじめとした大学等、30機関51名が参加。分科会セッション、先駆的事例報告、情報交換会、地域連携CDの役割について意見交換を行い、長野大学、金沢大学、和歌山大学が先駆的事例報告を行った。

※セミナーは本学事業で平成23年より継続開催。地域と大学を繋ぐコーディネーターネットワーク構築事業として開催。本事業では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた議論や学び合いの場を作ることを目的に開催。



CDセミナーの様子（岸和田市 浪切サロン）

【4】運営基盤の強化／視察受入等

4-1 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

《南紀熊野サテライト連携協議会の委員等とみらい戦略二期計画を策定H27年までの実施計画を設置》
「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけでなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育（人材育成）・研究（理論と実践）・実践（政策・地域づくり）の発展を目的にみらい戦略二期計画を継続して策定した。具体的アクションプラン策定のために企画委員等と意見交換を行った。

①みらい戦略二期計画を実行

みらい戦略二期アクションプラン20項目を基に活動の見直しと改革を進めてきた。平成27年に迎える「南紀熊野サテライト10周年」では今後の中長期のプラン策定と活動の運営基盤の強化を目指す。

②その他

南紀熊野サテライト地域連携コーディネーター新任採用。

4-2 南紀熊野サテライト視察の受け入れ

《那智勝浦教育委員会と連携して那智勝浦町の小学生と保護者の視察受け入れを実施》

那智勝浦町教育委員会と連携して那智勝浦町の小学生と保護者の見学会を実施。広報室学生グループが参加して和歌山大学の紹介と小学生の将来の職業について話合うなど交流を深めた。

①那智勝浦町教育委員会、小学生、保護者20名視察受入

開催日：平成26年2月28日（土）13：30～16：30 参加者22名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：若年世代の学力向上と大学進学への動機付けになるよう、大学とサテライトの活動を知ることを中心に、那智勝浦町教育委員会と市民グループが連携して小学生、保護者22名がサテライトを見学。和歌山大学の広報学生グループが大学活動を紹介。参加した小学生は、同日開催されていた南紀熊野サテライト公開講座オープンキャンパスセミナーを見学するなど大学の授業の雰囲気味わった。その後、将来の仕事について大学生と小学生が語り合うなどして触れ合った。

4-3 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

《各種会議運営や南紀熊野サテライトや和歌山大学の活動成果の情報発信を実施》

①オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議事務局を担当。

②和歌山大学の全学の最前線拠点・情報拠点として、大学案内・入試案内・各種情報提供を地域で行うと共に、南紀熊野地域の知の拠点として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の活動を実施。

以上

あしがき

本年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果となった。これらは、サテライトオフィスだけでは達成されるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、学内の皆様、関係者の皆様の支えがあって実施されたものである。皆様に厚く御礼を申し上げます。

今後も「地域を支え地域に支えられる大学」の実践に向けて、様々な取り組みを実施します。

和歌山大学南紀熊野サテライト

